

八戸ブックセンター基本計画書

平成28年5月

八戸市

目 次

はじめに	1
○整備の背景	
○施設の概要	
1. 基本的な考え方	3
○施設のコンセプト	
○施設の位置づけ	
○施設運営の基本方針	
2. 施設の構成（フロアイメージ）	6
3. 事業内容	7
○企画事業	
○情報発信	
○セレクト・ブックストアについて	
4. これまでの展開	13

はじめに

○整備の背景

八戸ブックセンターは、政策公約に掲げる「本のまち八戸」を推進する中心拠点として、本に関する新たな公共サービスを提供することで、市民のみなさんに様々な本に親しんでいただき、市民の豊かな想像力や思考力を育み、本のある暮らしが当たり前となる、文化の薫り高いまちを目指すとともに、当施設を中心市街地に開設することにより、来街者の増加、回遊性の向上を図り、中心市街地の活性化にもつなげることを目的として開設が計画されました。

市長政策公約（一部抜粋）

「本のまち八戸」を目指し、赤ちゃんを対象にした「ブックスタート」と新小学生を対象にした「ブッククーポン」の配布を行うとともに、書店との連携により、本のセレクトショップ「八戸ブックセンター」を開設します。

当公約に掲げる3つの取組のうち、既に下記の2事業が先行して行われています。

○ブックスタート事業

八戸市総合健診センターでの股関節脱臼検診の終了後に、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行った後、絵本1冊と図書館の利用案内などを渡し、赤ちゃんと保護者が絵本を介して心ふれあう時間を持つきっかけを提供。

○マイブック推進事業

市内の小学校に通う児童に、市内書店で本を購入できる「マイブッククーポン」を配付し、保護者とともに書店に出かけ、自ら本を選び購入する体験を通して読書に親しむ環境をつくる。

また、「本のまち八戸」の更なる推進のため、下記の事業を新たに創設しました。

○“読み聞かせ”キッズブック事業

市内の3歳児を対象に、市内書店で本を購入できる「キッズブッククーポン」を配付し、幼児教育の初めとなる3歳児に対し、保護者が絵本等の読み聞かせを行うきっかけをつくる。

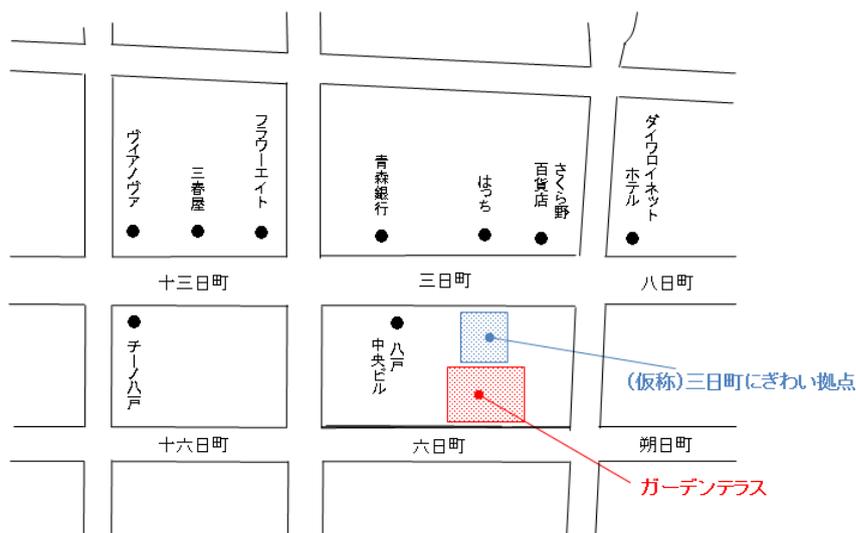
○施設の概要

八戸ブックセンターは、株式会社江陽閣が、旧レックビル・マルマツビル跡地の六日町側に建設した複合ビル「ガーデンテラス」の1階に設置します。

当複合ビルは、商業・業務機能を有する地上4階建てのビルで、1階は公共用通路を挟んで物販テナントと飲食テナントを、2階と3階はオフィスを、4階は屋上テラスと飲食テナントをそれぞれ配置する予定となっています。

【施設概要】

名 称	八戸ブックセンター
住 所	八戸市大字六日町 16 番地 2 ガーデンテラス 1 階
面 積	約 315 m ²



「ガーデンテラス」の三日町側に隣接する約 1,100 m²の敷地には、屋根と壁がガラス張りで、2階デッキを擁した全天候型の多目的広場「(仮称) 三日町にぎわい拠点」が整備される予定となっています。

当広場は、水・緑・光などの自然を感じられる街なかの「庭」の役割を担う「マチニワ」をコンセプトとしており、日常的に人が集まる場所として、八戸ブックセンターで購入した本を広場で読んだり、広場を利用して、本にまつわるイベントを行うことも想定しています。

1. 基本的な考え方

○施設のコンセプト

八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、
あたらしい「本のある暮らしの拠点」

八戸ブックセンターでは、提案型・編集型の陳列による本の閲覧スペースの提供と販売、本に関するイベントの開催などを中心に、市内の民間書店や図書館、市民活動と連携しながら、全国で類を見ない、これからの時代にふさわしい本に関する公共サービスを構想し、提供していきます。

また、小さいながらも、豊かな本の出会いを提供するあたらしい施設として、市民のみなさんはもちろん、全国から注目され、多くの人が当市に訪れてみたくなるきっかけとなるような場所へと育てていくことも目指します。

「八戸ブックセンター」ロゴマーク



八戸ブックセンター

<ロゴ制作コンセプト>

二冊の本が寄り添って八戸の“八”を形作っている。本は、ひとりで読むのが基本ではあるが、それでは終わらず、本と本、本と人との“つながり”をこの八戸ブックセンターで体験してもらいたいという願いを二冊の本にこめた。

また、当施設は「本のまち八戸」を推進する拠点であり、「本のまち八戸」推進のキャンペーンマークとして、下記のロゴマークも活用しながら各事業への取組み及び関係機関との連携を図っていきます。

「本のまち八戸」ロゴマーク



<ロゴ制作コンセプト>

「本のまち八戸」の拠点となる八戸ブックセンターと関連性のあるデザインとし、「本のまち八戸」の言葉そのものが印象として残るように、文字をそのまま図案化した。

ロゴデザイン：groovisions

○施設の位置づけ

八戸ブックセンターは、政策公約に掲げる「本のまち八戸」を目指す取り組みの、乳幼児（生後90日～1歳未満）とその保護者を対象とした「ブックスタート事業」、小学生を対象とした「マイブック推進事業」、また、3歳児とその保護者向けに新たに創設した「“読み聞かせ”キッズブック事業」に続く、大人を主な対象とした施設です。

また、八戸ブックセンターは中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指すため、本と出会う新たな機会の創出、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点施設としても位置づけています。



○施設運営の基本方針

- 方針1 本を「読む人」を増やす
- 方針2 本を「書く人」を増やす
- 方針3 本で「まち」を盛り上げる

八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

方針1 本を「読む人」を増やす

「本好き」はまず、本を「読む人」です。本を読むことは、日々の生活を楽しむ、とても豊かなことですが、それが習慣になるまでは、少し時間がかかることでもあります。八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。

方針2 本を「書く人」を増やす

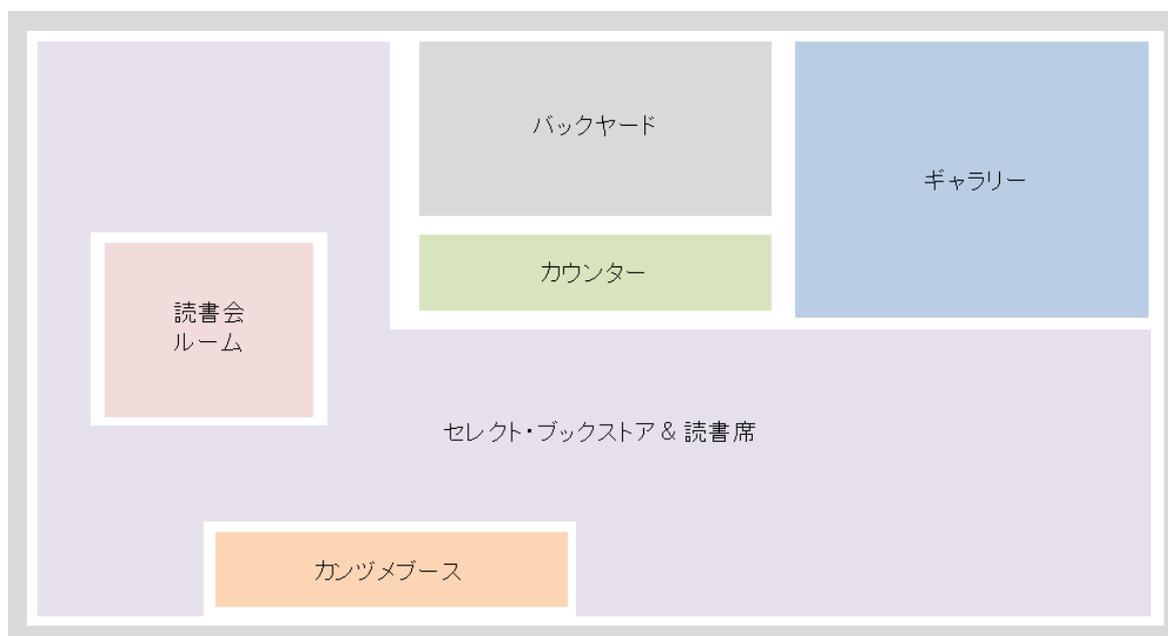
「本好き」が高じて、本を「書く人」になることもあります。本を「書く人」が多いまちは、豊かな想像力や思考力にあふれ、魅力的なまちとなることでしょう。当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。

方針3 本で「まち」を盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。

この基本方針に則り、子どもから大人までが本と出会い、本に親しむ環境づくりに取り組んでいく中で、八戸ブックセンターは主に大人を対象とし、市の直営による運営としますが、民間書店や図書館と適切な機能分担を図りながら、これまで手に触れる機会が少なかった本に出会える場の創出という、本に関する新たな公共サービスを提供することとされています。

2. 施設の構成（フロアイメージ）



施設機能	内 容
セレクト・ブックストア	海外文学や人文・社会科学、自然科学、芸術などの分野を中心に、専門家ではなくても手に取りやすい内容の本を主として、幅広くセレクトします。また、興味を引く工夫をした本の陳列をし、気に入った本は購入することができます。
読書席	本棚と一体となった様々な席の中から、自分にあったお気に入りの場所を見つけられるような空間を作ります。また、ドリンクホルダーを設置し、カウンターで購入したドリンクを楽しみながら本との出会いの時間をゆっくりと過ごせるようなしつらえにします。
読書会ルーム	本から得た知識や情報、感情などを共有できる場である読書会用の部屋を設け、一部開閉式にすることで、トークイベントなどの際に会場としても使用する予定です。
カンヅメブース	本や論文を執筆したい人向けに、集中できるブースを設けます。
ギャラリー	特定の作家や作品に関する展示、本の印刷・造本・装丁などに関する展示など、様々な企画展を行います。
カウンター	ブックセンターと本のまち八戸に関する案内窓口やレジカウンターを設けます。

3. 事業内容

○企画事業（☆は開設初年度から実施予定）

八戸ブックセンターは、先に示した3つの基本方針のもと、下記の事業を段階的に実施していく予定です。

（1）本を読む楽しさを共有する「本のまち読書会」（☆）

八戸ブックセンターが主催者となり、読書会を開催します。取り上げる本は当施設が取り扱っている本の中から選定するほか、後述の「ブックセンター・ギャラリー」事業、「アカデミック・トーク」事業、「パワープッシュ作家」事業などと連携し、関連する本や作家を取り上げることもあります。

（2）本の面白さを伝える展示を行う「ブックセンター・ギャラリー」企画展示（☆）

「ブックセンター・ギャラリー」を会場に、八戸ブックセンター主催、もしくは関係機関との共催による企画展示を行います。特定の作家や作品に関する展示や、本の印刷・造本・装丁などに関する展示が中心となります。

（3）本を勧めあうことを楽しむ定期イベント「ブック・ドリンクス」（☆）

毎回、あるテーマのもとにお勧めの本を持ち寄り、各自自由に紹介しあう、本好きが集う交流会を開催します。

（4）大学や専門学校の先生を招いて本の話聞く「アカデミック・トーク」（☆）

市内の大学や専門学校などを中心に講師を招き、本を軸にした知的好奇心を刺激するアカデミックなトークショーを開催します。

（5）本の執筆・出版したい人向けのリーフレットを活用した「出版相談窓口」（☆）

自費出版の方法や電子書籍を自分で作る方法など、出版にかかるさまざまな相談内容を解説したリーフレットを作成し、本を執筆・出版したいという人の相談を受けます。

（6）書き手をサポートする「執筆・出版ワークショップ」

小説の書き方や自分史の書き方、電子書籍の作り方など、執筆や出版に関するワークショップを開催します。

（7）特定の作家を決めて市全体で盛り上げる「パワープッシュ作家」

特定の作家を「パワープッシュ作家」に選び、市内書店や図書館でフェアを開催するほか、当市説においても読書会やブック・ドリンクスのテーマに取り上げ、それらの取組みを記録して作家本人に伝えるなど、作家との交流を深める企画を開催します。

(8) 作家を招いて八戸を舞台に小説を書いてもらう「八戸の物語プロジェクト」

作家に一定期間当市に滞在してもらい、当市を舞台に小説を書いていただきます。また、滞在中はパワープッシュ作家として市全体をあげて盛り上げたり、トークショーに出演いただくなど、作家と交流を深める企画を開催します。

(9) 市内書店の選書のサポートを行う「市内書店個性化プロジェクト」

市内書店から希望を募り、その書店の個性や立地上の特性、スタッフの関心領域などに合わせて、個性ある棚づくりをサポートします。

(10) 市内の小売店・飲食店に本棚を置く「ブックサテライト増殖プロジェクト」

市内の小売店や飲食店に呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本棚を設置し、市全域に広がるさまざまな本棚スポットをめぐる楽しさを創出します。

また、上記(1)～(10)の事業を軸として実施しながら、下記に掲げる事業も将来的に検討・実施していきます。

○年に一度の本のお祭り「八戸ブックフェス」

「本のまち八戸」の年に一度の行事として、様々な団体と連携し、一箱古本市やビブリオバトルなど、本に関する様々な企画を、一定期間集中的に開催します。

○八戸で本に詳しい人を登録「まちのブックコンシェルジュ」

市内で特定の分野に詳しく、その分野に関連する本を紹介できる人を「まちのブックコンシェルジュ」としてサポーター登録し、その方を講師とするアカデミック・トークや当施設内での読書会を主宰していただくなど、企画事業にも参画していただける仕組みづくりをします。

○「書店・図書館横断検索」

特定の本を探している人に対し、どの書店または図書館にその本があるか案内することが可能となるよう、市内書店や図書館の在庫を横断検索できるような仕組みの構築について関係機関とともに検討します。

○情報発信

(1) 「本のまち八戸」フリーペーパーの発行

当施設の各種情報のほか、市内書店の情報、八戸市民作家によるエッセイやコラムなど、本でまちを盛り上げることを目的とするフリーペーパーを発行します。

(2) Web サイトからの情報発信

オフィシャルの Web サイトを開設し、当施設の取組を宣伝・広報するとともに、市内書店のイベントや企画展の情報を発信します。

○セレクト・ブックストアについて

八戸ブックセンター内には、市民が本に親しむ環境づくりの一助となるよう、市民の本に関する興味関心を高め、本との偶然の出会いによる知的好奇心の向上に寄与するような選書をしたセレクト・ブックストアを設置します。

陳列する本の選書にあたっては、以下の基準を基本とします。

(1) 共通事項

ア 海外文学や人文・社会科学、自然科学、芸術などの分野（以下「主たる取扱い分野」といいます。）を中心に、研究者や専門家向けではなく、一般の方にも手に取りやすい内容を主として、幅広く選書を行います。

イ 選書にあたり、市内民間書店と競合しないよう最大限配慮し、市に対し各書店より個別の申入れがあった内容について、客観的かつ明らかに各書店の営利を著しく圧迫していると認められる場合には、検証及び協議の上とその解消を図るものとします。

(2) 入門・基本図書棚

主たる取扱い分野の書籍が持つそれぞれの文化的、学術的な広がりを俯瞰することができるよう、入門者向けの書籍、基本図書となる書籍及び最新の動向に準じた書籍を中心に、幅広く選書し陳列します。また、下記4つの大分類に分野に応じた最低限の小分類を入れ、関連するテーマのところどころに、入口となるような別分野の書籍も混在させることで、本への興味関心を喚起する陳列とします。

ア 大分類 「世界」 小分類 「国名などの地域」
世界各国の文学や歴史、風俗及び文化などに関する人文・社会科学に関する書籍。
「旅」をテーマとした書籍を混在させる。

イ 大分類 「人文」 小分類 「哲学・思想」「心理」など
人文・社会科学に関する書籍。
「関連するフィクション作品」「エッセイ」などを混在させる。

ウ 大分類 「自然」 小分類 「宇宙」「物理」など
自然科学に関する書籍。
「関連するフィクション作品」「エッセイ」などを混在させる。

エ 大分類 「芸術」 小分類 「美術」「音楽」など
芸術に関する書籍。
「洋書の写真集」「アートブック」「一般の書籍流通に乗っていないリトルプレス」などを混在させる。

(3) 普遍的テーマ棚

主たる取扱い分野の書籍について、通常親しみのない人でも本を手にとるきっかけを創出するため、多くの人に関係する普遍的テーマのもとに幅広く選書し、編集した陳列を行う。また、下記4つの大分類ごとに関連するテーマのところどころに、入口となるような別分野の書籍も混在させ、テーマを固定して、内容を都度編集する。

ア 大分類 「人生について」

世界各国の研究者や作家、その他偉人などの本格的な伝記、遺された手記、及び哲学・思想を中心に、広く「人生」をテーマとした書籍。

イ 大分類 「命の終わり」

哲学、思想、宗教学、心理学などを中心に、広く「命の終わり」をテーマとした書籍。

ウ 大分類 「愛するということ」

哲学、思想、社会学（家族、婚姻）などを中心に、広く「愛」をテーマとした書籍。

エ 大分類 「仕事のはなし」

社会学（労働・貧困・若者）、経済学、仕事論などを中心に、広く「仕事」をテーマとした書籍。

(4) 八戸の地域資源等に関するテーマ棚

主たる取扱い分野の書籍について、当市の産業、文化、風土、自然環境などの地域資源に関係する事柄をテーマに幅広く選書し、編集した陳列を行う。また、下記に例示する大分類のようなテーマを設定し、関連する様々な分野の書籍も混在させながら、テーマを固定して、内容を都度編集する。

テーマ例示 「工場」「ジャズのまち」「横丁と酒」「イカと海」など

(5) フェアテーマ棚

主たる取扱い分野の書籍について、大小様々に設定した時限的テーマのもとに幅広く選書し、編集した陳列を行う。また、下記に例示する大分類のようなテーマを設定し、関連する様々な分野の書籍も混在させる。なお、テーマは、下記に例示する八戸ブックセンターにおいて設定するもののほか、市民からのテーマ募集も行いながら運用し、希望する市内民間書店へは、テーマ及び選書した書籍情報等について、各書店でのフェア企画での活用にも供することが可能なものとする。

テーマ例示 「ねむりの秘密」「人工知能」「家電のふしぎ」など

(6) ひと棚

一般市民をはじめ、市内の研究者や書店員、当市ゆかりの人物や来訪歴のある人物などの著名人などに対し、一定のテーマを設定した上で、選書を公募又は依頼し、「人物」をきっかけに書籍への興味を抱くような陳列を行う。

(7) 本のまち棚

「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」「本でまちを盛り上げる」の3つのコンセプトに沿った分類、及び本自体に関する書籍や本づくりの実例としてのリトルプレスについての分類など、下記5つの大分類を設定し、選書及び陳列を行う。

- | | | | |
|---|-----|------------|---|
| ア | 大分類 | 「読む人を増やす」 | 読書論やブックガイドに関する書籍。 |
| イ | 大分類 | 「書く人を増やす」 | 文章論や言葉に関する書籍。 |
| ウ | 大分類 | 「まちを盛り上げる」 | 都市論やまちづくりに関する本。 |
| エ | 大分類 | 「本にまつわる諸々」 | 装幀、印刷、電子出版などに関する本。 |
| オ | 大分類 | 「小さく作られた本」 | 主たる取扱い分野を中心に、個人や任意団体などが出版した、一般の書籍流通に乗っていないリトルプレスなど。 |

(8) 新刊平台

最新の動向を追いかけることができるよう、(1)の本の新刊について選書し、陳列する。

八戸ブックセンターでは、上記の方針に基づき選書を行いますが、市内民間書店とのサービス競争を避けるため、ブックセンター窓口における特定の本を購入するための注文（いわゆる「客注」）は原則として受付しないこととしています。

なお、選書にあたっては、公共性を担保するため、八戸市図書館資料収集要綱に準じて、選書基準要綱を制定します。

4. これまでの展開

(1) ディレクション業務

「本のまち八戸」を推進する中心拠点として、先に示した3つの基本方針のもと、「施設運営・管理」、「選書・陳列」、「イベント・展示等企画」、「宣伝・広報」などの業務を検討していくうえで、ブック・コーディネーターとして全国的に活躍されている内沼晋太郎氏をディレクターに招き、計画に携わっていただいています。

計画に関わるこれまでの業務内容は以下のとおりとなっています。

平成26年度（平成26年10月～平成27年3月）

①本の品揃えに関する調査の実施

市内書店、市内図書館、公民館にある図書館分室を訪問して調査を実施

②書店等でのヒアリング、意見交換の実施

市内書店、市内図書館、公民館にある図書館分室、八戸市読書連合会を訪問してヒアリング及び意見交換を実施

③上記①、②の意見内容等及び市担当部署との検討内容等に基づき、「八戸ブックセンター」及び「本のまち八戸」プロジェクトに関するコンセプト、事業内容案等の構想を作成

平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）

①施設設計（工事基本設計書）の検討、作成

②施設運営に係る業務内容の検討、作成

③選書コンセプト、選書案の検討、作成

④ウェブサイト展開案の検討、作成

⑤「八戸ブックセンター」及び「本のまち八戸」ロゴマーク案の検討、作成

⑥従事職員の候補者選定

⑦基本計画書素案の検討、作成

⑧プレ事業の検討、実施（トークイベント：実施概要は次頁参照）

・内沼晋太郎×ナカムラクニオ「本でまちを盛り上げる」

・南陀楼綾繁×内沼晋太郎×小林真「本のまちをつくる」

⑨オープニング事業の検討

(2) プレイベント

タイトル：「本でまちを盛り上げる」ナカムラクニオ×内沼晋太郎

日時：平成27年10月24日（土）10:30～11:30

場所：八戸ポータルミュージアム「はっち」1階はっちひろば

内容：荻窪にあるブックカフェ「6次元」の店主ナカムラクニオ氏と内沼晋太郎氏によるトークイベント



タイトル：「本のまちをつくる」南陀楼綾繁×内沼晋太郎×小林眞

日時：平成28年1月30日（土）15:00～16:30

場所：八戸ポータルミュージアム「はっち」1階はっちひろば

内容：「一箱古本市」の発案者でライター・編集者の南陀楼綾繁氏と内沼晋太郎氏、八戸市長の3名によるトークイベント

